

A—36 全血比重と食生活に関する研究
—成人女子の手指作業者について—

昭和女大短大 掛塚 芳子

1. 最近若い女子における貧血が問題になっているので、全血比重と食生活がいかなる関係にあるかを知るために全血比重測定とともに食生活の内容と疲労感について調査を行ったので報告する。

2.

1) 対象 手指作業に従事する女子

2) 年齢 18~29才

3) 被検者数 160名

4) 方法 硫酸銅法
質問用紙に記入法

5) 期間 昭和45年5月下旬~6月上旬

3. 1) 全血比重は 1.0465~1.0595 に分布し、成人女子の基準値(1.0520以上)に満たない者の割合は全体の25%である。

2) 全血比重が比較的高い 1.0550 以上の者は全体の20%で基準値以下の群との間に体位における体重に差がみられる。

3) 全血比重が基準値以下の群では、おやつを毎日摂取する者が多く、その種類は、甘いもの・塩からいものを好む傾向がみられる。

4) 食事の形態は、全体的に朝食にパン類、昼食に米飯類、夕食に米飯類が多く、朝食を摂取しない者の割合は15%である。

5) 朝食を摂取しない群と摂取する群の全血比重における相関はみられなかったが、自覚疲労テストの結果、身体的、精神的疲労症状は前者に顕著であることがみとめられた。